



NOBLE INTERVIEW

ます。ヨーロッパ・カルチャーを意識して名付けているのです。

傳 アンパにキーキングされている。メイシスとはどういう意味ですか？

M・R 完全な再生という意味です。

傳 すこい名前ですね(笑)

M・R 言葉の由来は人間の動作を忠実に模倣する様子の意味で、昔のギリシャ語です。この名前を付けた理由というのは、ここが重要なのですが演奏、音楽をオーディオシステムで再生するということは、生演奏をすることはありません。しかし、それは生演奏を聴いた時に得られる一種のパッションや、言葉で表現できないほどの素晴らしい感動を再現できるプロダクトであるという意味なのです。

傳 リリカルでいいですね、やっぱりレバシオンさんは昔からのオーディオファイルだったんですか？

M・R そうですね(笑)。祖母はトスカニーニのもとでコーラスをしていた人でした。だから私はうんと小さいころから音楽には親しんでいました。幸せな環境ですね。学生時代は、もうオーディオファイルです。せっせと貯蓄して、高価だったマランツやマッキントッシュを買って、音楽を楽しんでいました。

傳 なるほど、では、やはりレバシオンさんが現在、ゴールドムンドのプロダクトを手がけるといことは、ほかに満足できる製品がないからですか？

M・R そうですね、どうやら、私は完備主義者のようで……今までにどんな製品にも100%満足するものがなかったんですね。ですから、今こうなっているわけですよ(笑)

傳 なるほど、そうですね(笑)

アメリカ、ヨーロッパそして日本

三つのお国柄の要求を満足させるのは大変

傳 レバシオンさんから見て、現在のヨーロッパではLDとCDのバランスはどうなっているんですか？

M・R そうですね、一見するとLDが

うに、確実に浸透しています。彼らは大きな部屋で大きな音でロックをエンジョイするんですよ。しかもアレイナターイブのスピーカーが多いですね。ある程度の大音量とトランススペアレンシー、つまり透明度を求める傾向にあります。

それに比べてヨーロッパでは小さな部屋で小さなダイナミック・タイプのスピーカーである場合が多いでしょう。エレクタロスティックはあまり好まれません。

高効率の大音量スピーカーも好みません。あくまでも小さな音で楽しむ、イメー

ジングとナチュラルさ、そしてアキュレイトな表現を好みます。ダイナミックレ

ンジはあまり求めない傾向ですね。音楽は小編成のチェンバー・ミュージックを好みます。

さて、日本ですが、大型ダイナミックスピーカーが大好きなようですね。大容量を信託として、イメーシングやナチュラルさは、さほど重要視されていないようですね。

M・R ええ。

傳 同じようにレバシオンさんから見て、世界のオーディオシーンはどう見えますか？

M・R おもしろいものですよ。まずアメリカでは、ハイエンド・オーディオファイル層に、ロックがポップスと同じよ

しかもパワーフルなイメーシングをすべて満たさなければいけないんですよ。傳 大変だ(笑)。アポロロッドは効率がいちばん高いですね。コンデンサー型の高効率が高い。その評価はいかがですか？

M・R ハイエンド・オーディオのマーケットは世界的にも限られていますが、ゴールドムンドはいつもトップブランドです。車もそうですね。フェラーリの評価は世界的にも同じように高いものです。

しかし、アジヨーやニッサンのようなクラスは国によって評価が異なりますよ。オーディオもそうですね。



最適と思われる小チーム

そして優れたデザインングの結晶が

いい結果をもたらす

傳 ゴールドムンドの中では、いちばん安値だった。ステージエト、というアナログプレーヤーはセールス的に良くなかったそうですね。

M・R だめでしたね(笑)。どうもゴールドムンドはローコストな製品作りには向いていないようですね。

傳 (笑)メルセデスがピットルを作ったためなんだ、開発チームはどうなっているんですか。